

【研究協議】

生活科 説明（阿部教諭）

○意図的にうまくいったおもちゃの工夫と困りのあるおもちゃを提示していった。うまくいったことがお気に入りのおもちゃになっていくことを期待した。

○子どもたちから、「〇〇すればよい」は出てきたが、「もっと〇〇すればよい」「〇〇になればよい」といった深い学びまでには至らなかったのではないかと考えている。

総合的な学習の時間 説明（廣瀬教諭）

○「0円食堂」を超える「無駄なし食堂（ごみを出さずに捨てるものがない）」をつくることを目指した。〈生ごみを減らすこと〉〈できるだけ毎日できること〉の視点で考えさせていった。

○生ごみを減らそうとする思いをベースに進めていったが、まとめ方に課題が残った。

〈生活科に対して〉

Q：1つのおもちゃの「困り」を全体に広げた意図は？

A：一人一人の「困り」や「思い」をみんなで解決したいと考えた。「困り」を生かした「工夫」につなげられるかがポイントであった。「困り」の共通点が自分のおもちゃに生かせるかと考えさせたかった。

（総合的な学習の時間に対して）

Q：考えさせるときに別の視点はなかったのか？問題となる状況はなかったのか？

A：考えが絞りにくかったかもしれないが・・・。

Q：考えさせる視点を新しくしたほうがよかったのではないかと？生活は、遊びの異なるグループの工夫点を紹介し合う意味があるのか？

Q：例えば、自分たちでできるか。プレゼンする内容を検討させることもよいのではないかと？

指導助言（田村 学視学官）

〈生活科〉

○工夫するおもちゃを意図的に指名して全体で考えさせることはよかった。工夫の方向性に共通性を持たせることができたのではないかと。

○試行させる際の見せ方に課題があった。机の上でやって見せたり、教室の真ん中で試行させたりすると、全員の追究意欲が途切れなかったのではないかと。

○よく動くために、機能（＝材料、作り方）を改善していくことが全体の向上につながるよう指導することが大切。

〈総合的な学習の時間〉

○「子どもの考える視点になっていない…「対象が違う」「視点自体に無理がある…視点が違う等」の場合は、考える視点を再考していくことが大切。追及する視点によって授業が変わっていくことがあってもよい。

○話し合う対象や視点になっているのかと考えられる子どもを育てていく。教師の与えた視点だけで学習を進めることのない子どもを育てていくことが大切。

〈全体講評〉

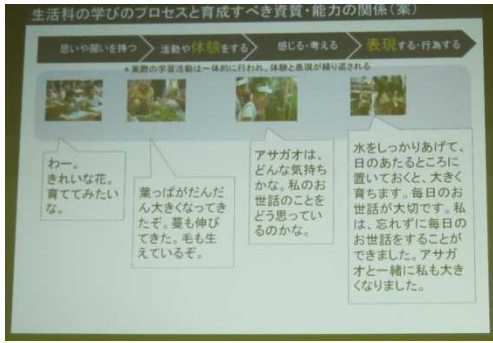
■学びのプロセスを説明できるイメージをもつことが大切。

各教科等の目標にも示されているプロセスの充実→各教科等の資質・能力の獲得につながる。

■活動のインタラクションは、表現することを通して質が上がることを示された。体験と表現をどのようにつなげばよいかを示された。「言葉と体験をつなぐ」「どんな場面でどのように書かせるか。」意図的・組織的に体験と表現の向上を図る場が構成されている。

■今後は、形容詞、動詞、名詞等を発達段階に即して、共有することで表現に生かしていく工夫が考えられる。

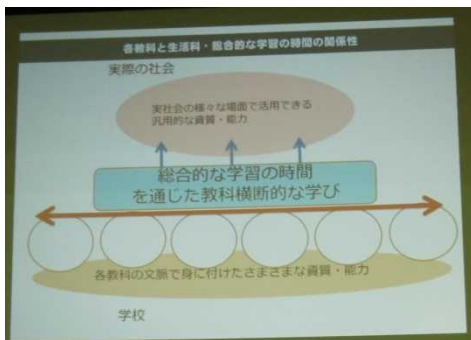




■生活科に精緻な指導を取り入れてきた。スモールステップだけの指導でよいというわけではない。スモールステップなのかジャンプ指導なのか、どちらの指導を行えばよいのか、教師が分かっていることが大切。

■次期学習指導要領の改訂のキーワードであるアクティブ・ラーニングの視点に基づいた指導とカリキュラム・マネジメントである。

■総合的な学習を要とした単元配列表の作成が望まれる。各教科等における資質・能力が統一されているので、関連の整理がしやすくなっている。



教科	単元	学習の時間
国語	伝えたいこと書けるかな、読む楽しさ、読む楽しさ	10月
算数	暮らしの楽しみ、暮らしの楽しみ	10月
理科	暮らしの楽しみ、暮らしの楽しみ	10月
総合的な学習の時間	暮らしの楽しみ、暮らしの楽しみ	10月
特別活動	アサガオ、アサガオ、アサガオ	10月
道徳	伝えたいこと、暮らしの楽しみ	10月
音楽	暮らしの楽しみ	10月
図工	暮らしの楽しみ	10月
体育	暮らしの楽しみ	10月

【文責 佐伯教育事務所】